

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●川田将雅騎手がJRA通算1万1000回騎乗を達成

10月10日(日)の4回東京2日・第5レースでパンブリッジに騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上39人目、現役では25人目となるJRA通算1万1000回騎乗を達成しました。

●栗田徹調教師がJRA通算200勝を達成

10月9日(土)の4回東京1日・第9レースとして行われた山中湖特別ではククナが1着となり、同馬を管理する栗田徹調教師(美浦)は、現役107人目となるJRA通算200勝(延べ2566頭目)を達成しました。

●2016年の日本ダービー馬マカヒキが約5年ぶりに勝利

10月10日(日)の4回阪神2日・第11レースとして行われた京都大賞典(GⅡ)ではマカヒキ(牡8歳/栗東・友道康夫厩舎)が優勝しました。同馬にとっては2016年9月11日のニエル賞(仏GⅡ)以来となる勝利。JRA重賞に限れば2016年5月29日の東京優駿(日本ダービー)(GⅠ)以来、中5年4か月10日の勝利で、これは歴代3番目、GⅠ勝ち馬としては歴代最長となるJRA重賞競走勝利間隔記録です。なおグレード制が導入された1984年以降、7歳以降も現役を続けた日本ダービー馬はマカヒキだけで、「8歳で重賞を勝利した日本ダービー馬」はマカヒキが初となります。

●サウジアラビアロイヤルCは全馬人気順の決着

10月9日(土)の4回東京1日・第11レースとして行われたサウジアラビアロイヤルC(GⅢ)では、1番人気コマンドラインが1着、2番人気ステルナティーアが2着、以下7着まで出走全馬が単勝人気順の決着となりました。出走全馬の人気順の決着は、グレード制が導入された1984年以降、JRA重賞では1987年アメリカジョッキークラブCの6頭が最多で、7頭では初のこととなります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●アルクトスが人気に応じて南部杯(盛岡)連覇達成

マイルチャンピオンシップ南部杯(JpnⅠ、10月11日、盛岡、1600m)は、3番手を追走した1番人気の昨年の覇者アルクトス(田辺裕信騎手、牡6歳、父アドマイヤオーラ)が、先に抜け出したヒロシゲゴールドを残り100mで捉えて2馬身半差を付けました。2番人気のソリストサンダーが3着、インティが4着、ワイドファラオが5着、3番人気のエアスピネルが6着、サンライズノヴァが7着と、7頭出走したJRA所属馬が上位を独占しています。

●エーデルワイス賞(門別)は地元北海道のスピーディキック

エーデルワイス賞(JpnⅢ、2歳牝馬、10月14日、門別、1200m)は、中団から馬群を縫って追いつけた3番人気の北海道所属馬スピーディキック(岩橋勇二騎手、父タイセイレジェンド)が、1番人気のヒストリックノヴァをゴール前で内から差し切りました。ブッシュガーデンは4着、逃げたナックドロップスは5着、ヒノクニは最下位の14着でした。

●ダービーグランプリ(盛岡)は船橋の伏兵ギガキング

ダービーグランプリ(10月3日、盛岡、2000m)は、5~6番手から4コーナー手前で先頭に立った8番人気の船橋からの遠征馬ギガキング(牡、父キングヘイロー)が直線の競り合いをクビ差で制し、南部駒賞、東京湾Cに続く3度目の重賞制覇。重賞未勝利ながら1番人気に推されたギャルダル(船橋)は11着に沈んでいます。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド川崎の結果

2021ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド川崎は10月13日に実施され、第1戦は古岡勇樹騎手(川崎)、第2戦は七夕裕次郎騎手(浦和)が優勝しました。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1スプリングチャンピオンS~ディーブインパクト産駒が制す

10月9日にオーストラリアのランドウィック競馬場で行われた、G1スプリングチャンピオンS(3歳、芝2000m)はディーブインパクト産駒のオーストラリア産馬プロフォンド(牡、R.リット厩舎)がR.ドーラン騎手に導かれ、先行策から直線で抜け出して2.18馬身差で優勝しました。母に豪G3ウィデンSの勝ち馬オネステイプリベールズを持つプロフォンドは2020年1月のマジックミリオンズ社ゴールドゴースト1歳セールで190万豪ドル(約1億5200万円/1豪ドル80円で換算)で落札。今年9月1日のデビュー戦(芝1400m戦)を制した後、続く前走9月25日のG3グローミングSは直線で右にヨれる若さを見せての2着でした。

●G1スピンスターS~レトルスカが重賞5連勝

米国ケンタッキー州のケンランド競馬場で10月10日に行われたG1スピンスターS(3歳上牝、ダート1800m)は、単勝1.4倍の1番人気に推されたレトルスカ(牝5歳、父スーパーセーバー、F.グティエレス厩舎)がJ.オルティス騎手を背に逃げて1馬身 $\frac{3}{4}$ 差で快勝。これで今年4月のG1アップルブロッサムH(ダート1700m)、6月上旬のG1オグデンフィップスS(ダート1700m)、同月下旬のG2フルールドリスS(ダート1800m)、8月のG1パーソナルエンズンS(ダート1800m)に続く重賞5連勝としました。